

クラス番号	901	ゼミタイプ	地域研究型
		担当教員名	角崎洋平
テーマ	福祉を支える「ひと」「もの」「おかね」のネットワークを探求する		

ゼミナール概要

目的・内容・方法

いま日本では、福祉サービスの供給を、多くの民間団体（社会福祉法人、協同組合、NPO、株式会社など）が担っています。しかし民間団体が福祉サービスを供給するためには、「ひと」や「もの」をどこから調達しなければなりません。また「ひと」「もの」の調達のためには「おかね」も当然必要になります。このゼミを履修するみなさんには、福祉サービスを供給する民間団体の実践の重要性を認識してもらいながらも、その実践を支える地域の「ひと」「もの」そして「おかね」のネットワークのあり様やあり方（あるべき理想像）について探求してもらいます。

具体的には二段階で、「ひと」「もの」「おかね」のネットワークに迫ります。

ステップ1 市町村福祉行財政から、福祉のための「ひと」「もの」「おかね」のネットワークを理解する
 まずは、行政が、民間団体による福祉サービスの提供を地域の中にどう位置付けているか、また、こうした福祉サービスの提供をどのように支援しているのかを調べます。そして、そのための費用は誰が負担しているのか、も確認します。そのうえで、行政が福祉サービス供給を支援していくことの重要性と、行政の限界についても考えます

ステップ2 市民が主導する、福祉のための「ひと」「もの」「おかね」のネットワークを理解する
 次に、福祉サービスを供給する民間団体や個人を支援するために、どのような取り組みが市民の側でなされているのか、「ひと」「もの」「おかね」それぞれのネットワークを調査します。そして、そうした市民の取り組みと行政が、どう連携すべきかを考えます。

授業計画(具体的な進め方)

前期（上記（1）に対応）

グループに分かれ愛知県内自治体各地の福祉行政や関連行政の展開状況を調査します。主に行政計画や統計データを参照しながら、各地の福祉を比較検討していきます。また、各自治体の予算関係書類やNPOなどの会計書類を集め、福祉に関する「おかね」がどこからきているのかも調べてみます。

後期（上記（2）に対応）

福祉サービス供給を支える民間のネットワークについて、各グループに分かれて調査していきます。

グループ①：福祉を支える「おかね」のネットワークを調べる→調査先：NPOバンク、地域の金融機関等

グループ②：福祉を支える「もの」のネットワーク→調査先：食料を配布・提供するフードバンク等

グループ③：福祉を支える「ひと」のネットワーク→調査先：生協による「協同」のネットワーク等

担当教員からのメッセージ



昔、主人公が「事件は会議室で起きているんじゃない！現場で起きているんだ！」と叫ぶ刑事ドラマがありました。「福祉」においても、やはり「現場」を知ることが大事です。しかし「現場」を支える制度・システム・社会構造があってこそ、「福祉の現場」がスムーズに機能する、という側面も忘れてはなりません（そういう意味では「会議室」とその運営のあり方も重要だといえます）。行政専修のみなさんには、「現場」の視点と、それを支える制度・システム・社会構造のあるべき姿を見据える視点の両方を、バランスよく身に付けてもらいたいと考えています。このゼミがそのための訓練（演習）の場になればと思っています。